

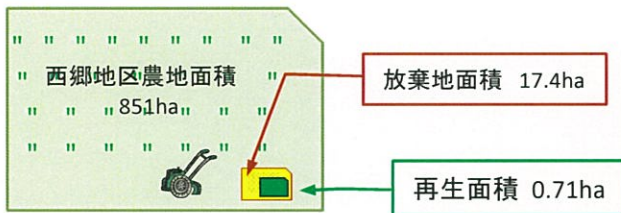


肉用牛繁殖に農外参入 ~ 飼料自給に耕作放棄地を再生利用



地元大手の総合建設業者。新しい事業として肉用牛繁殖に参入を決め、平成22年12月、認定農業者法人「株式会社だんだん牧場」を設立。飼料の島内自給策として耕作放棄地を再生し、平成24年春からイタリアンライグラスの栽培を始めた。

【西郷の気候 年平均値】	春/3~5月	夏/6~8月	秋/9~11月	冬/12~2月
気温 (°C)	5. ¹	16. ¹	24. ¹	11. ⁷
降水 (mm/月)	132. ¹	140. ⁵	188. ⁵	137. ¹
日照 (時間/日)	3. ³	6. ³	5. ⁶	3. ⁸



きっかけ

新分野事業として、隠岐の島の伝統産業でもある「肉用牛繁殖」に決めることになったが、決定までには半年をかけじっくり検討。その中で『飼料の島内自給』も検討課題の一つとなった。役場からは

- ①隠岐の島全域では44haの耕作放棄地があること
- ②再生利用地においては牧草栽培も認められ、自社消費も可能であること
- ③耕作放棄地再生には国、県、町からの支援が受けられること

などを聞き、耕作放棄地を再生利用することで、課題の一つであった『飼料の島内自給』に向けて一定の効果が期待できる感触を得た。加えて、企業としての地域貢献の一端として、放棄地解消により環境美化、環境保全面で寄与できることも動機となり、平成24年1月に島内2ヶ所、71aで再生工事が始められた。

事業規模



放牧面積 50ha



肉用牛 101頭



従業員4名

再生利用の状況

イタリアンライグラスは3月末に播種、5月、7月、9月に収穫され、この間大きな管理作業は不要。再生地ではあるものの牧草栽培の適地として評価できている。

有機の島内循環

飼料の島内調達としては、農家から稲わらをもらい受ける一方、牧場からは牛フン堆肥として農家へ供給する形で畜・農間で有機の循環も図られている。



今後について

飼料の自給率は5%程度とまだまだ低い。

平成25年度にも、新たに耕作放棄地を再生して牧草栽培面積を広げ、自給率の向上を図りたい考え。

平成25年3月に初めての出荷となる。